

## 南友部地区自主防災組織設立式 3つの自主防災組織が同時に設立

南友部地区自主防災会設立式が2月20日宿公民館で行われ、「原店自主防災会」「南友部宿自主防災会」「久保・古山自主防災会」の3つの自主防災組織が設立されました。これは、近年地域での交流が希薄化する中、改めて近所の助け合いの力を見直そうと、区長を中心とした組織設立の取り組みが結実したものです。

今後は、防災をキーワードに地域の交流をより一層深めながら、いざというときに「自分たちの地域は自分たちで守る」という共助の精神で、隣近所が協力し助け合う活動が行われることとなります。



南友部地区自主防災組織設立式の様子

## ブランド化に向けて 笠間産「栗」商品試作発表会を開催

笠間の栗グレードアップ会議による笠間産「栗」商品試作発表会が2月24日、笠間クラインガルテンで開催されました。栗は、秋を代表する味覚で、和・洋菓子、料理を問わず優れた加工特性があります。高品質な地元産栗を使った新たな商品を提供し、魅力をPRすることで産地ブランドの確立を目的に実施されたもので、この趣旨に賛同した19事業者から24もの商品が出品されました。発表会では、試食を交えて栗の加工性や味、商品化の採算性等について活発な意見交換が行われました。



試作品を囲んでの、活発な意見交換

## 笠間市次世代育成支援行動計画 「かさまっ子未来プラン」(後期行動計画)を策定

(「かさまっ子未来プラン」は笠間市次世代育成支援行動計画の通称です。)

急速な少子化の進行は、将来の社会活力の低下や社会保障制度の維持の問題など、社会全体に与える影響が懸念されています。そのため、子どもを生み育てやすい社会環境の整備が早急な課題となっており、笠間市では、平成19年度から平成21年度を計画期間とした次世代育成支援行動計画(前期行動計画)を策定し「地域みんなで支え合う子育てのまち笠間市」を目指して、少子化対策を重点施策として取り組んできました。

この計画の見直しにあたり、就学前児童および就

《計画期間内に重点的に取り組む事業》

- ・ファミリーサポートセンター事業の実施
- ・次世代を担う男女の出会いの場づくりの促進
- ・放課後児童クラブの充実
- ・乳幼児医療福祉費(マル福)の支給年齢の拡大
- ・特定不妊治療費助成事業の充実
- ・複合的な機能を有する児童館の整備
- ・遊具の設置及び公園整備の検討

学児童の保護者へのアンケート調査やハッピートークなどにより保育ニーズの把握やご意見・ご要望等をいただくと共に、学識経験者、保育・教育関係団体の代表者・公募市民などからなる「笠間市次世代育成支援対策地域協議会」での審議を経て後期行動計画を策定しました。



今後も後期行動計画(計画期間平成22年度～平成26年度)により、だれもが安心して子どもを生み育てられる環境づくりに積極的に取り組み、次代の社会を担う子どもたちが、健やかに生まれ育つよう、施策を総合的・計画的に取り組んでいきます。

計画書は笠間市子育て支援ホームページ「かさまぼけっと」から閲覧することができます。(PDF形式)  
URL:<http://www.city.kasama.lg.jp/kosodate/>



## ご寄附、ありがとうございました

このほど、笠間市交通安全母の会から横断歩道を渡る際に掲げる横断旗1,500本、笠間地区交通安全協会から市内小学校の新1年生の交通安全の願いを込めたランドセルカバー750枚が笠間市教育委員会に寄附されました。



笠間市交通安全母の会より

笠間地区交通安全協会より

## あさひ子どもを見守る会が発足 北川根小学校で対面式

北川根小学校区で登下校する児童の見守りをそれぞれ自発的に行ってきたメンバー10名。このたび、これらの活動が県教育委員会に認められ、「あさひ子どもを見守る会」として発足しました。3月1日、会員が北川根小学校を訪れ児童と対面。会員が一人一人紹介された後、児童代表から日ごろの活動に対し感謝の言葉が伝えられました。

「子どもたちの元気なあいさつが一番うれしい。」と語る会員のこれからの活動が大いに期待されます。



あさひ子どもを見守る会の皆さん



## 友部駅南口広場が完成

このほど、友部駅南口広場の整備が完成し、供用が開始されました。南口広場は、従前の約3倍の広さとなり、これまでの慢性的な渋滞が解消し、北口広場とあわせ、明るく使いやすい駅前広場となりました。バスやタクシーなどの乗降スペースも整備され、送迎や駅利用のための駐車場も設置されました。



市の玄関口としてふさわしい駅前が誕生

## 日本舞踊こども教室発表会を開催 日ごろの練習の成果を披露

2月28日、笠間市伝統文化日本舞踊こども教室の発表会が笠間公民館で開催されました。日本舞踊こども教室は、文化庁の委託事業のひとつとして行われているもので、市内に住む2歳から高校生までの男女30名が参加しています。花柳太純乃先生の指導の下、練習を重ねてきた成果を十分に発揮しようと、色とりどりの着物姿で、小さい子はかわいらしく、大きい子はしっかりと足取りで踊っていました。



女子全員で「さくらさくら」を披露